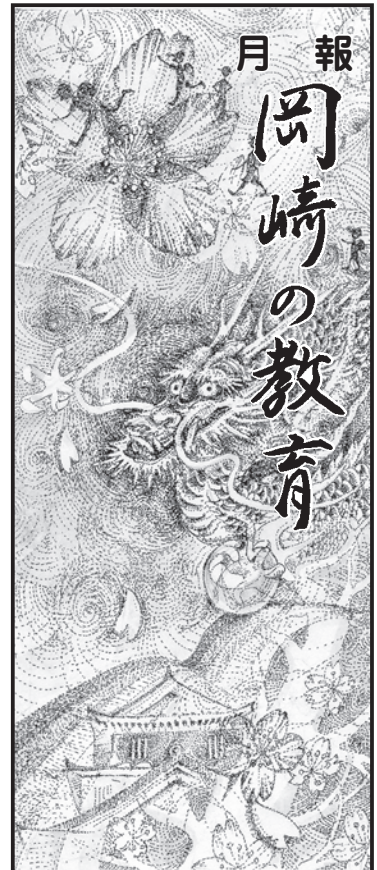


# 知之者不如好之者 好之者不如楽之者



愛知県立岡崎商業高等学校  
校長 小川 浩司 氏

## 教育随想



令和6年1月1日

# 1月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想……………	1
愛知県立岡崎商業高等学校 校長 小川 浩司 氏	
この人に聞く……………	2
岡崎製材株式会社 代表取締役 八田 欣也 氏	
羅針盤……………	2
学習情報指導員 太田 尚志	
ふれあい……………	3
大門小学校 教諭 田中章太郎	
特集……………	4
地域の特色を生かし、豊かに生きる力を育む -小規模特認校制度-	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
緑豊かな校庭(昭和48年)	
この本を……………	8

生成AI(人工知能)は、十年以内に人類の十倍の能力をもつAGIとして進化を遂げると予測されています。米オープンAIが開発した、ChatGPTの最新モデルGPT4は、医師試験や司法試験にも合格するまでになりました。そのジェネラル版がAGIです。人間のような汎用的な知能をもつ人工知能であり、意思決定能力も備えます。まさに、鉄腕アトムやドラえもんのようなアニメの世界が現実になる日が間近に迫ってきています。

私たちは、このような次代に備え、今以上の人間力と、AGIと共存できるスキルを身に付ける必要があります。経済産業省は「人生百年時代の社会人基礎力」として、三つの能力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)と、三つの視点(何



を学ぶか・どのように学ぶか・どう活躍するか)を、常にリフレクシオンし続けることが必要であると提唱しています。この社会人基礎力を育成し向上させるために、本校では、科目「岡崎学」をはじめ、特色ある多くの「主体的に対話的な深い学び」を実践しています。

表題の「知之者不如好之者、好之者不如楽之者」は論語の一説です。積極的に「知る」ことによって、何かを「好き」になる、更に「楽しむ」ことができれば、もっと知りたい、もっと好きになりたい、もっと楽し

みたいと想うようになる。このようになりフレクシオンをおこなうことが、社会人基礎力の向上を促します。本校の合言葉「たのしめ岡商」の目的もここにあります。

創立一二年目を迎えた岡崎商業高等学校は、その時流の中で、多くの優秀な卒業生を輩出してきました。これからも将来を見据え、時代に即した教育を取り入れながら、地域の皆さまの期待に応えられる高等学校を目指します。

(おがわ こうじ)



自然のもつ魅力を伝えたい

岡崎製材株式会社

代表取締役 八田 欣也氏

三階建ての倉庫には、世界中から仕入れた多種多様な無垢材が置かれていて、木に触れ、美しい空目に出会える空間だ。八田さんは、子供のように目を輝かせながら、今日もお客様に木材のもつ魅力を伝えている。

「この仕事を始めたきっかけについて聞かせてください」

一九一七年(大正六年)に、曾祖父が八田材木店を創業しました。社内で木挽きをし、地域に材木を供給していたのが始まりです。

四代目である私は、はじめは家業である材木屋を継ぐことに、戸惑いを感じていました。高度経済成長期に大学を卒業し、大手企業に就職することがよしとされていた時代に、材木屋なんて時代錯誤だと感じていたからです。幼い頃の私は、自然の神秘に心惹かれる子供でした。小学校の理科の授業

で雪の結晶を見たとき、涙が出るほど感動しました。「こんなにきれいな模様を誰がどうやって作ったのだろう」という驚きと不思議な感覚を今でも覚えていますが。それ以来、自然という偉大な創造主が生み出すデザインの力に魅せられてきた気がします。

そして、材木屋として、美しい無垢材の「空目」という、自然のデザインを生かす方法を探し始めたのです。

「住まいに無垢材を取り入れようと考えたのはなぜですか」

学生時代、私は部屋の模様替えをしたり、インテリア製品を見て回ったりすることが大好きでした。会社を継ぐ前に、銘木店に勤める傍ら、インテリアアコーデイナーになるための専門学校にも通いました。いつもインテリアのことはかりを考え、私が魅了されている無垢材を、生活空間にどう生かせばよいか、考える毎日でした。

そして、三十年前から空目を生かした無垢の家具づくりを始めたのです。今では、内装材としても無垢材を取り入れています。日本人が昔から慣れ親しんでいた無垢材を住空間に使うことで、木材の文化をもう一度広めたいと思っています。

「仕事を行う上で大切にしていることはありますか」

弊社では二十五年前から「NATURE DESIGN(=自然はデザインしていい)」をロゴマークとして使用しています。木は、地面に生えているときが一番価値ある状態です。素材を生かし、

愛情を込め、手間をかけることが、木材の価値を保つことにつながります。愛情を込めると、その愛情は木に移ります。これは、料理や子育て、教育にも通じるところがあると感じています。

創業百年を迎えた二〇一七年には、SDGs活動の一環として、家具づくりによって出る端材(切れ端)を余す所なく使い商品化する「HAZALproject」を立ち上げました。自然が創り出したデザインを生かすことにこだわり、製品作りをすることが、私たち自然素材を扱う者の使命であると考えています。

「今後の目標を教えてください」

地域にとって、存在価値のある会社でありたいと思っています。その計画の一端として、いつか老朽化した倉庫を改装する際には、三階に木のミュージアムを作りたいと考えています。子供が自由に遊び、子供や地域の方々が実際に木に触れられる場を作りたいのです。そこが、皆さんにとって記憶に残る場となり、自分が子供のころに感じた自然のもつ魅力を伝えられたら幸いです。

今後も「上質な木のモノ」を提供し続け、「やっぱり木っていいよね」と感じてもらえるよう、尽力していきます。



氏名 八田 欣也  
生年月日 一九五六年八月二十八日  
住所 岡崎市戸崎元町



「デジタル」の出番はどこか

学習情報指導員 太田 尚志

ICTのような「デジタル」は、実物では置き換えられないことに絞って、授業で用いるとよい。安易な多用は、子供が「使ったことに満足する」という状態に陥るからだ。

A教諭は、六年社会科「巨大古墳と豪族」で、「デジタル」と実物を使い分け、手だてを講じた。

まず、大型ディスプレイに大仙古墳と自分の小学校区の航空写真とを透過して重ね、提示した。子供は「大きい」「一人だけの埋葬で広すぎ」と口々に言った。

次に、岡崎市所蔵の埴輪を机上に出した。子供は、「本当に作ってんだ」「手づくりは大変」とつぶやいた。教室に持ちこめない大仙古墳は校区の写真に透過して提示する。机上に並べられる埴輪は実物を見せる。この手だてにより、子供は古墳の大





## 関わりから生まれた安心感

大門小学校

教諭 田中 章太郎

「Aさん、おはよう。新しい教室だから緊張するよね。」

二年生の学級開きの日、Aさんは、新担任の私の声に一瞬反応したが、すぐさま目をそらした。

Aさんは小学校に入学後、環境の変化や不安から、学校生活や友達にうまくなじむことができなかった。

私は、Aさんが安心して生活できるように、Aさんの様子をよく見て声をかけたり、一緒に外で遊んだりした。しかし、Aさんが私に言葉を返すことはなかった。私は、Aさんの心を開くために、Aさんの理解者になりたいと強く思った。

ある日、子供たちが、Aさんが友達とけんかしたと訴えてきた。すぐに駆けつけ、それぞれの言い分を聞いた。Aさんを見ると、歯を食いしばって涙を浮かべていた。

そのとき、いつもならふて腐れてしまいそうなAさんに、「大丈夫」と声をかけた友達がいた。その言葉にAさんは、「うん」と答えたのである。初めて聞いたAさんの声。そして、友達に対するAさんの素直な態度に驚いた。

その日から、私は、Aさんとの関わり方を変えた。Aさんと私ではなく、Aさんと友達との関わりに重点を置いた。それが他者を信頼し、安心感を得ることにつながると考えた。

さらに、Aさんが自分から関わる姿を期待して「クラスかいぎ」と称し、子供たちで学級の問題点を話し合うことができる場を作った。私は、Aさんの様子をじっと観察した。何かつぶやこうとするAさんに、さりげなく、「Aさんはどう思う」と声をかけた。しかし、Aさんは何も答えなかった。ただ、会を重ね、ずつと見守り、声かけし続けるうちに、友達の話真剣に聞いたり、うなずいたりして、「クラスかいぎ」を楽しむ姿が見られるようになってきた。

二期期になって、「静かに自習するためにどうしたらよいか」という話し合いをした。話し合いが中盤に差しかったとき、Aさんが友達に、「言っていないかな。」

とそつとつぶやいたのである。「いいよ、いいよ。言ってみて。」

と友達がAさんを後押しした。

次の瞬間、Aさんは私をぱっと見ただ。まるで「言っていない」と聞いているようだった。私は、Aさんの目を見て大きくうなずいた。

「勉強することを決めておく。」

Aさんは、恥ずかしそうに小さな声で言った。その声を、耳を澄まして聞いていた友達が、はじかれたように叫んだ。

「なるほど。」

「Aさん、すごいよ。」

次々に反応する友達の温かい言葉で教室がいっぱいになった。

授業後、Aさんは私のそばに来て、伏し目がちに話しかけた。

「来週も『クラスかいぎ』やるの。」  
頬を紅潮させ、私に問うAさんの声が、小さくもはっきりと届いた。



きさや存在を実感する姿を見せた。

古墳への関心が高まったところで、A教諭は当時の様子を表した絵を個々のタブレット端末に送った。子供は「デジタル」でしかできないピンチアウト機能を使って、細部まで拡大し、見つめた。「埴輪十個ごとに大きな埴輪が一つある」奥の山で埴輪を焼く煙が上がっている」と、プリントでは一ミリ程度に過ぎない情報まで読み取ることができた。

さらに、気付いたことを付箋に書き、チームごとに一枚の紙に貼るように伝えた。ある子供が、「指示する人は、かさをさしてもらっている」と付箋を貼ると、友達との対話が自然に始まった。

「作業者は上着も着てないのね。」  
「弥生時代よりも指示者は偉くて、力をもっているのかな。」

アプリではなく、付箋を用いたことでチーム全員の視線が一枚の紙に集まり、対話につながったのである。子供は、対話により当事の人々の関係性に目を向け、古墳づくりへの興味をさらに高めることができた。

「デジタル」は、実物と併用することで新たな気付きや学びを引き出すことにつながる。「デジタル」をどう用いるか、精査して授業に臨みたい。

# 地域の特色を生かし、豊かに生きる力を育む

## - 小規模特認校制度 -



▲地域の方と一緒に耕す田んぼの中で、仲間とともに元気よく走り回る児童たち

本年度より、岡崎市では小規模特認校制度が始まった。この制度は、自然環境豊かな地域の特色を生かした小規模特認校の教育活動のもと、一人一人の児童の能力や可能性を引き出し、豊かに生きる力を育むことを目的としている。

市内の小学校に在籍する児童であれば、現住所のまま一定の条件のもとに特認校（下山小、夏山小、秦梨小、宮崎小）のいずれかに入学・転入・編入できる。卒業後は、特認校の学区の中学校、もしくは現住所の中学校のどちらに進学するかを選択することができる。

この制度により、児童や保護者は、多様な学びの場を選択することが可能になった。特認校では、児童の主体性を重視し、全員が課題解決を目指す協働的な授業、地域の方々と一緒に取り組む体験的活動、豊かな自然を生かした特色ある学校行事が行われている。特認校に通うことで、地域の方とのふれあいや児童の活躍の場が増え、のびのびと活動することができる。また、制度を利用した児童が地域の方と関わり、学区行事等に参加することで地域の活性化も期待できる。

小規模特認校での教育活動を通して、大きな成長を遂げた子供たちが、この経験を生かし、自分の未来を拓き、豊かに生きていくことを願っている。



▲地域の方とともに身近な自然を見つめる探鳥会(宮崎小)



▲上級生が下級生に算数を教える全校算数(夏山小)



資源回収や、学区の盆踊りに積極的に参加してくれるので、たいへんありがたく思っています。

学校の児童数が減ってきていて心配していましたが、人数が増え、さらに活気が出てきました。テレビでも取り上げられ、地域の活性化につながっています。

【地域の声】

僕はこれまで算数が苦手でした。でも、「全校算数」で上級生からアドバイスをもらったり、先生に丁寧に教えてもらったりしたおかげで、今までより速く計算できるようになりました。

田んぼに入るのは初めてだったので、最初は緊張したけれど、楽しかったです。

【児童の声】

もともと在籍していた子供たちはとても温かく、制度を利用した子供ともあつという間に打ち解け、毎日楽しく遊んでいます。

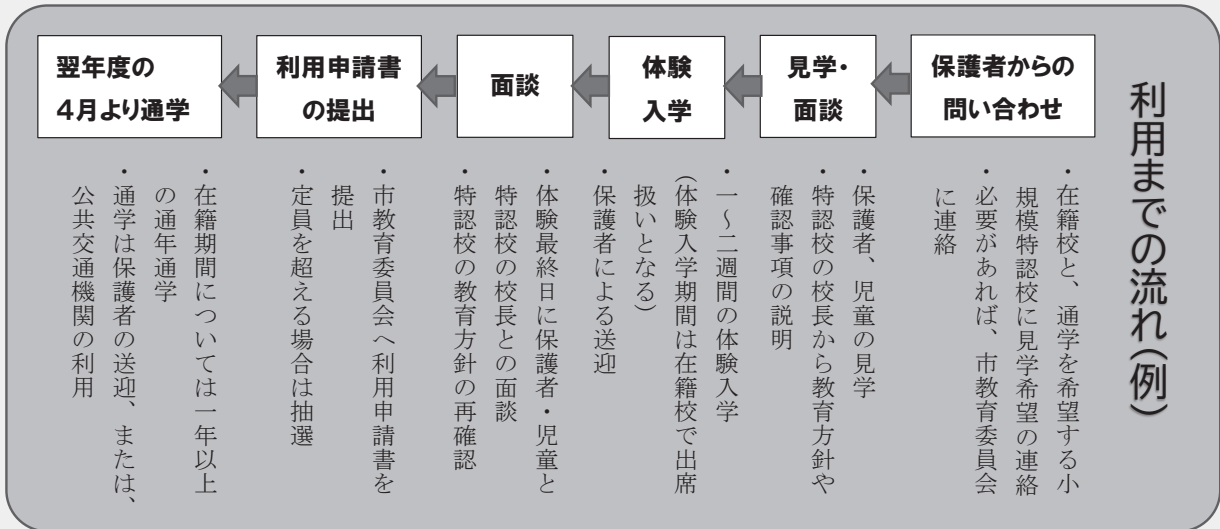
子供たちは、自然の中で活動する行事が大好きで、友達や地域の方に積極的に話しかけ、楽しそうに活動することができています。

【教員の声】

小規模特認校制度を利用して初めての学芸会を参観させてもらいました。

少人数だからこそ、一人一人の役割がとてもしっかりと、子供の活躍する姿をたくさん見ることができました。子供の成長を実感することができ、とても感動しました。

【保護者の声】



▲少人数による授業(下山小)



▲地域の方に教わる炭焼き体験(秦梨小)



●教育最新情報

◆令和六年度全国学力・学習状況調査

○調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題について検証・改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査の対象

小学校六年生、中学校三年生

○調査事項

教科に関する調査では、小学校調査は国語・算数、中学校調査は国語・数学となる。

出題内容は、身に付けてお

かなければ後の学年等の学習

内容に影響を及ぼす内容や、

実生活に不可欠であり常に活

用できるようになっているこ

とが望ましい知識・技能等、

さらに知識・技能を実生活

の様々な場面に活用する力、

様々な課題解決のための構想

を立て実践し、評価・改善す

る力等を測るとなっている。

○調査実施日

令和六年四月十八日(木)

◆第二回あいち教育賞

今年のあいち教育賞では、実践のすばらしさ、論文としての完成度の高さが評価され、岡崎市から優秀賞一点、佳作一点が選ばれた。

実践を論文としてまとめる

ことは、手だての有効性を明

らかにするとともに、自らの

授業を振り返ることになる。

授業力向上につながる教師の

大切な研修である。

・優秀賞

北中学校 白形 奈穂

「説明文を批判的に読む力を

養い、自らの表現活動に生か

そうとする生徒の育成」

・佳作

福岡小学校 太田 奈穂

「体育の見方・考え方を働か

せ、協働的に学びを深める子

供の育成」6年 陸上運動

「投の運動」の実践を通して」

◆叙勲・各種表彰

長年の教育活動における功績が認められ、次の皆様が叙勲・表彰を受けられました。

おめでとございます。

瑞宝双光章 杉本 安

瑞宝双光章 杉山 隆之

瑞宝双光章 平野 安世

瑞宝双光章 小林 義孝

瑞宝双光章 栗田 錦治

文部科学大臣表彰

鈴木 栄二

愛知県教育表彰

犬塚 尊夫

(敬称略)

●表彰

◆第57回全国野生生物保護活動発表大会

○男子区間賞

文部科学大臣賞 生平小

◆第12回日本学校合奏コンテスト2023全国大会ソロ&アンサンブルコンテスト

○アンサンブル部門

福岡中

銀賞 福岡中

銅賞 城北中

○ソロ部門

金賞・福島県教育委員会教育長賞

翔南中 田實 里紗

翔南中 亀田 葵

銀賞 城北中 南口瑚太郎

銀賞 城北中 和田 韻生

銅賞 城北中 和田 韻生

◆第91回全国書画展覧会

○書写の部

筆都大賞

竜南中 東森まりな

◆第72回愛知県中学校駅伝大会

○女子の部

2位 矢作北中

○女子区間賞

3区 矢作北中 夏目 純佳

4区 矢作北中 城島 友里

○男子区間賞

3区 六ッ美北中 本間 翔希

5区 矢作北中 稲垣 諒也

◆令和5年度愛知県中学校ソフトテニス新人大会

中学生女子の部

2位 矢作中

◆愛知県事杯 第9回中学生軟式野球大会

3位 竜海中



- ◆第37回愛知県小学生陸上競技選手権大会
- 小学6年女子走幅跳
    - 優勝 矢作南小 西原 凧紗
    - 愛知県知事賞 形埜小
    - 学校環境緑化の部
      - 銅賞 新香山中 石川桃希菜
      - 大門小 栗崎 結加
      - 竜谷小 林 千歳
      - 六名小 井川晃士朗
      - 美川中 市川 柚芽
      - 美川中 相澤 美月
      - 新香山中 小野田 滯
      - 男川小 野々山世那
      - 竜海中 判治 直哉
      - 福岡中 古賀 煌梨
  - 小学4年女子ジャベール投
    - 優勝 矢作南小 楓 汐莉
    - 最優秀賞・名古屋市教育委員会賞
      - 南中 中出 一花
      - 佳作
        - 男川小 野々山世那
        - 竜海中 判治 直哉
        - 福岡中 古賀 煌梨
  - ◆第58回CBCこども音楽コンクール 中部日本決勝大会
    - 重唱部門
      - 優秀賞 竜海中
      - 書道 半紙の部
        - 銀賞 南中 内田 実来
        - 美川中 椎葉 颯太
        - 美川中 雪吹 蒼舞
        - 佳作
          - 岩津小 後藤 桜歩
          - 男川小 加藤 彩葉
          - 甲山中 加藤佳奈枝
          - 竜海中 鳥居 紗妃
    - 合唱部門
      - 優秀賞 竜海中
      - ◆令和5年度JA共済小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール
        - 銅賞 連尺小 小池 史啓
        - 竜海中 國府田泰樹
        - 美川中 雪吹 蒼舞
        - 佳作
          - 岩津小 後藤 桜歩
          - 男川小 加藤 彩葉
          - 甲山中 加藤佳奈枝
          - 竜海中 鳥居 紗妃
      - 器楽部門
        - サクソフォーン四重奏
          - 最優秀賞 六ツ美北中
            - 金賞・JA愛知中央会会長賞
              - 六名小 新山 寛奈
              - 岡崎小 木下 華馨
            - 金賞・愛知県知事賞
              - 岡崎小 木下 華馨
              - 甲山中 加藤佳奈枝
              - 竜海中 鳥居 紗妃
          - 交通安全ポスターの部
            - 金賞・CBCラジオ賞
              - 矢作南小 生駒 千尋
              - 川角真里奈
          - 小学校合唱部門
            - 最優秀賞 六名小
              - 細川小 間 百々羽
            - 優秀賞 三島小
              - 田中 陽彩
            - 優良賞 山中小
              - 井川さくら
        - ◆第67回日本学生科学賞 愛知県展
          - 最優秀賞・名古屋市教育委員会賞
            - 南中 中出 一花
            - 佳作
              - 男川小 野々山世那
              - 竜海中 判治 直哉
              - 福岡中 古賀 煌梨
          - ◆第20回徳川家康作文コンクール
            - 最優秀賞・徳川賞
              - 福岡小 内田 結
            - 優秀賞・家康賞
              - 美合小 高木 潤
            - 岡崎商工会議所会頭賞
              - 岡崎小 西村美知佳
            - 大樹寺貫主賞
              - 大樹寺小 阿部真結梨
            - 伊賀八幡宮宮司賞
              - 緑丘小 河合 康希



## 教職員の相談窓口

【対象】 全教職員 【相談内容】 ・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間



・カ  
ツ  
ト  
  
東  
海  
中  
鈴  
木  
志  
麻

## 緑豊かな校庭 (昭和48年)

写真提供：六ツ美南部小学校



植栽し整備された花壇の前で、子供たちが顔を寄せ合っている。牡丹の花のものをのぞき込んだり葉に触れたりする子供は、にこやかな笑顔を浮かべている。

六ツ美南部小学校では、昭和四十三年の校舎建て替えに伴い、校地や校庭の再整備が進められた。毎年八月には親子奉仕活動が行われ、緑豊かな校庭を守り続けてきた。コロナ禍後の現在も、PTAの発案により、学区を半分に分け、隔年で交替して行う形で、親子奉仕活動が継続されている。

子供の健やかな成長に、環境が及ぼす影響は大きい。時代の変化に合わせながら、保護者や地域の協力を得て、学校の豊かな環境が整えられている。

宝玉を掴む三本の龍の爪が、岡崎市の市章に描かれている。「龍ヶ城」と呼ばれていた岡崎城を筆頭に、市内には龍とゆかりが深い場所や逸話が数多く残されている。岡崎は、龍に愛された街だ。

初詣の龍の絵馬が、龍城神社に揺れている。拝殿の天井にある白木彫りの昇り龍のごとく、勢いのある一年でありたい。

特認校制度が始まったことで、児童と保護者は、多様な学びの機会を選ぶことができるようになった。

今年度、制度を利用して児童は、どの子も生き生きとした表情で過ごしていると聞く。豊かな環境、特色ある教育、新たな仲間とともに、のびのびと活動する児童のさらなる成長を願う。

# とホ

# 睦目ツ



▲みんな上手に書けました (矢作西小)

追求を続け、一流の目利きが世界中から仕入れてきた多種多様で良質な無垢材。美しい柎目や年輪には、独自の風合いが醸し出されている。

「木の魅力をこれからも、多くの人に発信し続けていきたい」と願う八田さん。愛する我が子の嫁ぎ先を探すような面持ちで、それぞれの木の魅力をお客様に伝えている。



\*小さな幸福論「致知」の言葉 藤尾 秀明  
致知出版社 1,485円

心に残った一文  
全力は美である 力いっぱい現れはなんでも人をひきつける

心に残った一文は、本書で紹介されている後藤静香氏の詩の一部である。

授業や行事で、子供たちの力いっぴいの姿や真剣に取り組んでいる姿を見たとき、いつも心を動かされる。全力で目標に向かう子供たちは輝き、その姿に思わず引きつけられる。

人生の最終目的は幸せになること。子供たちが幸せになるための学校であり、教員でありたいと思っている。人を育てる立場として悩んだときに、先人の言葉から心がほっと温かくなり、大切なことを思い出させてくれる一冊である。

- \*僕の好きな先生 宮崎 亮 1,600円  
朝日新聞出版
- \*世界最高の伝え方 岡本 純子 1,540円  
東洋経済新報社
- \*情報活用のうまい人がやっている 齋藤 孝 1,650円  
3色ボールペンの使い方 フォレスト出版  
本宿小学校 中立 香